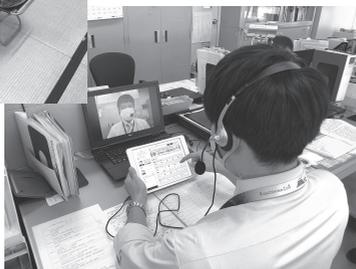


総務

1. 国際交流	71
2. 広報	73
3. シティプロモーション	76
4. 機関図	77
5. 職員数	79
6. 給与	83
7. 旅費	87
8. 職員研修	87
9. 情報システム	89
10. 東京事務所	93
11. 各種行政委員会 (選管・監査・公平・農業委)	93



▲ICTの活用



▲行政手続のDX推進



▲キャッシュレス決済時のイメージ

総務

総務関係では、姉妹友好都市など多くの国々との多彩な交流を推進するほか、市民ニーズなどを踏まえた市政情報の提供や市民参加などによる広報機能の充実を図っている。

また、行政運営を効果的に進めるための組織・定数管理や、研修を通じての能力開発の強化等による人材育成、情報通信技術を積極的に活用した地域情報化を進めており、効率的で質の高い行政運営の推進に取り組んでいる。

1 国際交流

(1) 姉妹・友好都市，兄弟都市，パートナーシップ協定都市

① ナポリ市（イタリア）——姉妹都市

ア 盟約年月日 1960年（昭和35年）5月3日

イ 盟約の動機と経過 鹿児島は古くから「東洋のナポリ」と呼ばれているが、1955年頃から両市民の間で文通が始められ、姉妹都市盟約の機運が高まる中、ロンドンタイムズ東京支局長などの努力で姉妹都市盟約の宣言がなされた。

ウ 盟約後の交流 親善訪問団の相互訪問、日本語図書の贈呈、青少年の翼事業による青少年の派遣、青少年の受け入れ、「ボンベイ展」の開催、ナポリ通りの命名、鹿児島通りの命名、鹿児島広場の命名、市電姉妹友好都市号の運行など。

② パース市（オーストラリア）——姉妹都市

ア 盟約年月日 1974年（昭和49年）4月23日

イ 盟約の動機と経過 「ひかりの街」南緯32度のパース市と「太陽とみどりの街」北緯32度の鹿児島市。このような似かよった市同士で、民間団体の親善訪問を契機に交流が始まり、カンガルーと日本猿の交換など、友好ムードが高まる中、鹿児島市においてリースティア市長を団長とした親善訪問団が参加して姉妹都市盟約の調印式が行われた。

ウ 盟約後の交流 親善訪問団の相互訪問、鳥の受け入れ、日本語図書の贈呈、スポーツ交流、青少年の翼事業による青少年の派遣、青少年の受け入れ、パース通りの命名、鹿児島玉龍高校とマター・ディ・カレッジ姉妹校盟約、鹿児島公園の命名、市電姉妹友好都市号の運行など。

③ 長沙市（中華人民共和国）——友好都市

ア 締結年月日 1982年（昭和57年）10月30日

イ 締結の動機と経過 鹿児島は中国大陸に近く、鑑真和上や遣唐使船など歴史的関係も深いことなどから、中国との交流を求める機運が高まり、1981年11

月、各界代表が中国の各都市を訪問し、友好を深めた。1982年3月、長沙市から友好都市締結の申し入れがあり、先遣視察団が鹿児島市を訪れるなど交流が深まる中、鹿児島市において熊清泉市長を団長とした代表団が参加して友好都市締結の調印式が行われた。

ウ 締結後の交流 友好都市締結を記念して、長沙市に「友好和平」像を、鹿児島市に「共月亭」を建設、日本語図書の贈呈（「鹿児島文庫」の設置）、動物交換、伝統芸能の公演、友好訪問団等の相互訪問、農業実習生の受け入れ、医学や水道、行政、環境、観光、教育、国際交流等の研修生の受け入れ、青少年の翼事業による青少年の派遣、青少年の受け入れ、市電姉妹友好都市号の運行など。

④ マイアミ市（アメリカ）——姉妹都市

ア 盟約年月日 1990年（平成2年）11月1日

イ 盟約の動機と経過 政治・経済・文化等の様々な分野において日本と緊密な関係にあるアメリカの都市との姉妹都市交流を求める機運が高まり、「アメリカ姉妹都市盟約懇話会」を設置し、検討する中で1990年1月にマイアミ市長一行が鹿児島市を訪問、同年4月には、鹿児島市から視察団を派遣するなど交流が深まり、鹿児島市においてドーキンス副市長を団長とした使節団が参加して、姉妹都市盟約の調印式が行われた。

ウ 盟約後の交流 親善訪問団の相互訪問、青少年の翼事業による青少年の派遣、青少年の受け入れ、図書の交換、鹿児島通りの命名、マイアミ通りの命名、市電姉妹友好都市号の運行など。

⑤ 鶴岡市（山形県）——兄弟都市

ア 盟約年月日 1969年（昭和44年）11月7日

イ 盟約の動機と経過 明治元年の戊辰の役に敗れた庄内藩の人々に対し寛大な措置をとった西郷南洲翁と、その措置に感動し、さらに翁の人徳に心服した藩主酒井忠篤公以下の庄内の人々との「徳の交わり」が、鶴岡と鹿児島との交流の始まりで、両市に庄内鹿児島会と鹿児島庄内会が誕生し、親交を深めていった。これをさらに拡大し、両市民の間の西郷南洲翁に対する共通の敬愛の精神を、今後さらにはぐくみ続けようとする機運が高まったのを契機に兄弟都市盟約を結んだ。盟約式は、鶴岡市長や両市の関係者が参列して南洲翁の墓前で行われた。

ウ 盟約後の交流 親善訪問団の相互訪問、兄弟校の提携、中学生親善使節団を1年毎に相互派遣、青年国内研修生の交流、5年毎に盟約記念式典、かごしま水族館と加茂水族館姉妹館盟約、市電兄弟都市号の運行など。

⑥ ストラスブール市（フランス）——パートナーシップ協定都市

ア 協定締結年月日 2019年（令和元年）11月25日

イ 協定締結の動機と経過 ストラスブール市は、古くから日本とつながりの深いアルザス地方に位置しており、鹿児島市と同じく路面電車を活用したまちづくりを進めている。お互いに訪問団を派遣し友好ムードが高まる中、ストラスブール市において、鹿児島市長を団長とした訪問団や本市青少年の翼訪問団が参加してパートナーシップ協定の締結式が行われた。

ウ 協定締結後の交流 持続可能な都市の発展のために、青少年、公共交通政策、文化と文化遺産、経済、スポーツ、高齢者政策の6つの分野での交流を行う。

(2) 国際交流センター

国際交流に関する機会を創出し、国際相互理解を促進することにより、本市の国際交流や、多文化共生の地域づくりを推進するための拠点施設。（公財）鹿児島市国際交流財団が指定管理者として、異文化体験講座や日本語支援教室等の各種事業を実施する。

所在地	加治屋町19番18号
開館	令和2年4月1日
開館時間	午前9時～午後9時（日曜日、休日は午後5時まで）
休館日	・月曜日（休日の場合はその後の最初の平日） ・12月29日～1月3日
主な施設	1階 交流ラウンジ、多目的ホール、研修室など 2階 調理室、和室、屋上テラスなど

2 広 報

広報紙、テレビ、ラジオ、インターネット等の広報媒体の特性を生かし、市民に対して市政に関する情報を正確に分かりやすくタイムリーに広報する。

(1) 広報紙等

名 称	発行部数		配 布 先
広報紙「かごしま市民のひろば」	年12回 月290,700部		全世帯
名 称	発行部数	発行部数	配 布 先
広報紙「かごしま市民のひろば」 点字版	年12回 月220部	B5判 約50頁	視覚障害者、ゆうあい館、 県立盲学校など
広報紙「かごしま市民のひろば」 音声テープ版・CD版	年12回 月230本(枚)	カセットテープ・ CD	視覚障害者、老人ホーム、 ゆうあい館、県立盲学校 など

(2) テレビ・ラジオ

① テレビによる市政広報番組

各番組放送終了後に、録画映像をインターネット（市ホームページ等）でも配信している。

放送局	番組名・放送日時
K K B 鹿児島放送	「かごしま元気BOX」 毎月第1～3金曜日 18:45～18:50
K Y T 鹿児島読賣テレビ	「ホット!!かごしまプラス」 毎月3回土曜日 11:55～12:00
K T S 鹿児島テレビ放送	「かご☆スタ」 毎月第1～3日曜日 16:00～16:05
M B C 南日本放送	「市民のひろば」 毎月第4日曜日 10:45～11:00

② ラジオによる市政広報番組

放送局	番組名・放送日時
鹿児島シティエフエム (76.2MHz)	「かごしまンドリーム」 毎月第4土曜日 17:30～18:00 「フレッシュライフかごしま」 毎週月曜日 7:55～8:00 「ピックアップ市民のひろば」 毎週水曜日 11:50～11:55
M B C ラジオ (1107kHz)	「市政スポット」 毎週日曜日 16:55～17:00
エフエム鹿児島 (79.8MHz)	「鹿児島市からのお知らせ」 第1～4月曜日 10:15～10:20

(3) インターネットの活用

① 市ホームページによる情報発信

市ホームページの運用・管理を行い、市政情報を発信している。

② ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）活用による情報発信

情報の拡散効果が大きい、フェイスブックやツイッター、インスタグラム、ラインなどのSNSを活用して、市の施策や取り組み、イベントなどに関するタイムリーな情報発信を行っている。

③ 鹿児島市広報デジタルアーカイブによる広報紙等の公開

昭和24年から発行している市広報紙及び昭和55年から平成26年3月まで作成した「市民フォト鹿児島」の電子データを、市ホームページで公開している。

④ 月間行事予定表の掲示

月間行事予定表を市ホームページに掲示して、市民に市政の動きや行事等の情報提供を行っている。

(4) 市民便利帳の発行

幅広い相談・問い合わせの窓口をコンパクトに掲載した市民便利帳を、2年に1回作成し、全世帯に配布する。

(5) 市民との協働による市政情報の発信

職員とのワークショップや公募の市民のひろばサポーター等による広報紙の記事作成、市内高校生との連携などを通じて市民の共感を育みながら、SNS等を活用した市民との協働による情報発信を行う。

(6) 鹿児島中央駅市民プラザの運営

市民及び観光客等に対して、市政に関する情報を提供している。（平成22年2月18日から鹿児島中央駅西口1階で市民サービスステーションと併設して運営）

市の施設や催し物の案内を、各種パンフレット類の配置や市政情報の映像配信により行っているほか本市の伝統的工芸品の展示も行っている。

(7) パブリシティ活動

① 市長定例記者会見の実施

毎月、市長が市政記者クラブ主催の定例会見で旬の市政情報を発表し、市民との情報共有とパートナーシップによる市政運営に努めている。また、インターネットによる録画配信も実施している。

② 報道機関への情報提供

市政記者クラブ加盟13社等に対し、各課からのお知らせや各種行事など市政に関する情報、資料を随時提供して、新聞、テレビ、ラジオによる広報に努めている。また、本市の月間行事予定表及び週間行事予定表を作成し、配布している。

(8) その他

① 市政情報配信システム

市政情報配信システムを利用して、本庁と各支所の待合ロビーなどで、市政広報テレビ番組や各種の行政情報、議会中継などの映像を配信し、来庁された市民等に広報している。

② 市役所庁内見学

市内の小・中学生をはじめ、市民の方々や市外からの見学希望者に対して、庁内各課や議会など庁内案内を行っている。

3 シティプロモーション

まちの魅力や価値の発掘・創造・磨き上げを行い、国内外に発信することにより、都市イメージを高めるとともに、まちを思い積極的に関わろうとする“鹿児島ファン”の拡大に取り組む

(1) 第二期鹿児島市シティプロモーション戦略ビジョン

- ブランドメッセージ あなたとわくわくマグマシティ
- 計画期間 令和4年から令和8年度までの5年間
- 戦略
 - ① ターゲットゾーン別アプローチ
ターゲットとする人々の本市への関わり・想いが高まるよう働きかけ、交流人口ゾーンから関係人口ゾーン、市民・定住人口ゾーンへ引き上げを図る。
 - ② 重点ブランディング
本市の多彩な素材の中から、特に重点的に取り組むテーマを設定して集中的に展開し、都市イメージの確立を目指す。

(2) 主な取組

- 都市ブランディング
市・市民・事業者がともに地域資源の魅力を再認識し、本市ならではのストーリーを付加して、その価値を磨き、定着を図ることで都市イメージを高める。
- シビックプライド醸成
楽しみながら、まちを想う体験を積み重ねることで地域への愛着を高め、シビックプライドの醸成を図る。
- 関係人口の拡大・深化
本市に興味・関心を持つ人をさらに拡大するとともに、その想いを継続的にまちにつなぎ、ネットワーク化を進めるなど関係性の深化を図る。

(3) シティプロモーションアドバイザーの配置

本市のシティプロモーション関連施策に関する専門的な助言を行うシティプロモーションアドバイザーを配置する。